

〒184-8511 東京都小金井市桜町 1-2-20 / TEL042-383-4111 (代) [http:// www.sakuramachi-hp.or.jp/](http://www.sakuramachi-hp.or.jp/)**基本理念**

私たちはキリストのように人を愛し 病める人、苦しむ人 もっとも弱い人に奉仕します

基本方針

1. 地域医療機関と強い連携を保ち、地域に根ざした信頼される病院運営をめざします。
2. 全人的（身体的、精神的、社会的、霊的）ケアを行います。
3. 全職員のよいチームワークによる患者さん中心の医療を行います。
4. 常に自己研鑽に努め、質の高い、安全・安心な医療を提供します。
5. 患者さんの訴えに誠心誠意耳を傾けます。

平成25年度の病院運営について

病院長 小林 宗光

桜町病院では今年度も運営の重点目標を決め、運営会議や院内報にて職員に周知を図り目標の達成に向けて取り組んでいるところです。その概略と病院の動きを説明します。

患者の視点に立った、安全な医療、満足度の高い医療を提供する。

常に医療の質の向上を図り、安全な医療、患者の視点に立った医療、優しさを持った医療の提供が我々の最も大事な使命です。昨年7月に桜町病院は日本病院機能評価機構による病院機能評価の審査（更新受審）を受けました。再審査なしで、10月5日に認定証を頂くことができました。職員が丸丸となって努力した結果でした。病院機能評価は、日本医療機能評価機構が中立・公平な立場に立って、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価する仕組みです。「認定病院」とは「地域に根ざし、安心・安全、信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、常日頃努力している病院」として病院機能評価機構が評価した病院と言えます。一年半をかけての受審に向けた作業の中で各種の要綱、規程、マニュアル、手順書等は念入りに点検・整備し、診療やケアのルールの見直しも行い、医療安全にも配慮、現場での実践に心を配りました。より良い病院作りには「これで良い」ということはありません。今後とも診療の質向上、チーム医療、医療サービスの質改善に継続的に取り組んでいきたいと思っております。

医療安全への取組みについてもインシデントレポートの提出の徹底、医療安全の研修・訓練、院内ラウンドを実施して計画的に職員の安全意識を高めることでより安全な医療の提供に努めます。

院内で起こりうる様々な感染の予防や対策、職員研修等については感染管理委員会が行ってまいりましたが感染対策の実動部隊として感染制御御チーム（インфекション・コントロール・チーム：ICT）が昨年の6月に発足しました。ICTは医師（インフェクション・コントロール・ドクター：ICD）、看護師（インフェクション・コントロール・ナース：ICN）、薬剤師、検査技師と、より迅速な対応ができるよう少人数、かつ組織横断的に構成されています。ICTは定期的に病院内をラウンドするだけでなく、得られた感染情報に基づいて病院内で迅速に対応します。また針刺し事故などの職員の感染予防についても対応します。感染情報は病院内の必要な部署へ迅速に連絡、問題点は後日開かれる感染管理委員会でも討議されます。冬季に流行したインフルエンザやノロウイルス対策も適切に対応することができました。

地域医療連携室のスタッフも1増員しました。地域で完結できる医療、地域包括ケアが提唱されている今、医

療機関、在宅訪問看護ステーション、地域包括支援センター、福祉施設、行政などとの更なる連携が望まれます。当院の地域医療連携室は患者さんの「なんでも相談」に対応できる体制を目指しています。

桜町病院では「優しく温もりのある医療」を提供したいと考えています。患者さんの声に耳を傾ける、患者さんの痛みや苦しみを理解する、患者さんの傍に寄り添うケアの姿勢が「桜町マインド」です。職員に「桜町マインド」の浸透を図るためにスピリチュアルケアの研修会やワークショップを昨年度は4回行いました。今年度も継続していく予定です。

患者サービスの充実

3月に病院のホームページを一新いたしました。病院の最新の情報を知っていただくため、引き続き内容の充実にも努めてまいります。患者サービスの充実については患者サービス向上委員会です定期的に検討しておりますが、投書や患者満足度調査で示された患者さんの声も今後の病院運営に活かしていきます。その一つ、電話による診療予約についてですが、「予約の時間帯が短く予約しにくい」という意見を頂戴しています。これにつきましては秋頃をめどに電話予約の時間帯を拡大したいと考えています。

診療情報システム拡大更新・経営の健全化

診療情報システムを拡大・更新するための作業は当初の予定より遅れています。現在のシステムは機能が不十分ですので、診療情報の共有化、医療の安全性の確保、患者サービスの向上、業務の効率化などに十分寄与できる機能を持った新しいシステムの導入を考えており、年内の稼働を目標にしています。

病床利用率を改善し、必要な人材を確保し、良質な医療、患者満足度の高い医療を提供し、患者さんからの信頼を得ていくことが経営健全化への道と考えています。また支出削減対策も引き続き進めます。

職員の資質向上のため研修環境の充実

患者満足度の高い、職員満足度の高い医療を展開していくためには、スタッフの育成が重要なテーマです。職員のスキルや知識を維持し高めていくために必要となる全職員対象の医療安全、感染管理、医療倫理、患者の権利、個人情報、接遇などに関する研修、各部署・各委員会等主催の研修、院外のセミナーや学会への参加を計画的に進めます。

毎年3月に開催しております院内研究発表会は、診療や日常業務に活かせるテーマが多く、年々レベルも向上しており今後の成長が楽しみです。職員一人一人が、自分の仕事に誇りを持ち、桜町病院を支えているのは自分だという意識がさらに醸成されていくことを希望しています。

当院における産婦人科診療

産婦人科部長代行 高江洲陽太郎

産婦人科医療は女性の身体を扱う診療科です。その年齢層は10代から時には90代の方まで診療致します。診療内容は、妊娠、出産の周産期管理を始め、生殖医療（不妊治療）、また子宮筋腫、卵巣腫瘍、婦人科がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん）などの腫瘍性疾患まで様々です。当院ではそのニーズに応えるべく周産期医療から婦人科手術まで常に女性の身体を考えた優しい治療を提供すべく努力しています。

周産期医療では100%安全な出産はまずありえないと言われています。無事に出産した新生児においても数%は何らかの蘇生処置が必要な場合があります。当院では産婦人科医、小児科医を始め産婦人科病棟、外来スタッフが新生児蘇生の講習を受けその資格を有しています。また何らかの合併症を持って生まれてきたケースや、重度な母体合併症を患ってしまったケースも速やかに連携施設へ搬送することが可能です。もちろん事前に何らかの異常が分かり分娩前に対処が可能な場合は高次機能施設へ御紹介させていただき、当院での分娩が可能か判断していただく場合もあります。また、妊娠後期に妊娠高血圧症候群となり陣痛の痛みにより血圧が上昇してしまうような方に安全のために計画分娩とし無痛分娩を提供させていただき場合もあります。母体、胎児への負担が最小限となるように対処いたしますが、出産時はなるべく自然な分娩になるように心がけております。平成24年の出産数は397件でした。（うち帝王切開は72件）



婦人科部門では当院の特徴は、婦人科良性腫瘍の手術を主に内視鏡を用いて行っています。内視鏡

では困難な症例に対しては開腹手術を行っています。内視鏡手術（腹腔鏡や子宮鏡）の件数は中規模病院でもトップクラスの実績です。子宮筋腫や卵巣腫瘍、子宮内膜症、不妊精査、子宮外妊娠手術を内視鏡を用いて行っています。腹腔鏡の手術は「吊り上げ法」という方法で行います。この方法は炭酸ガスを腹腔内に入れてお腹を膨らます方法とは異なります。下腹部の正中部分の皮下に針金を通し、お腹をテント状に吊り上げ、臍からカメラを挿入。処置は左右の下腹部より2cm程の傷で行います。（80%以上は左右どちらかの傷で治療可能です。）術後の痛みや合併症も少なく、傷も小さく少ないため美容面でも優れています。身体への負担が少ないため入院期間も短く早期の社会復帰が可能です。内視鏡での手術が困難な症例においてもなるべく創部を小さくするように努力しています。術後も再発予防のために定期的に外来通院で経過を見させていただきます。また粘膜炎や子宮内膜ポリープに対して行う子宮鏡下手術も行っています。この手術は不正性器出血や、子宮内に病変があるため妊娠に至らない症例に対し行っています。腹腔鏡、子宮鏡手術ともに基本的には全身麻酔下で行う手術です。当院では麻酔科医師も常勤でいるため安全に手術を行っています。手術中、何らかの合併症が生じた場合でも速やかに対処可能です。

平成24年の腹腔鏡手術は318件、開腹手術は57件、子宮鏡手術は108件でいかに内視鏡手術が多いかが分かります。子宮鏡下手術、腹腔鏡手術ともに2か月以内に手術が可能となっています。ここ最近では、晩婚化に伴い婦人科疾患を抱えているためなかなか妊娠に至らず、その治療目的のため当院を紹介受診される方が増えてきています。今後も患者さんに負担をかけないよう低侵襲な技術を早期に提供できるよう努力してまいります。



産婦人科医の減少が叫ばれて10年近く経過しました。ここ最近減少傾向に歯止めがかかり、ようやく横ばいという状況になってきましたが、未だに厳しい状況には変わりありません。それとは真逆に高齢出産に伴うハイリスク妊娠や、様々な合併症をかかえた妊娠は増加傾向です。当院においても高齢出産や合併症妊娠は増加傾向にあるといえます。また晩婚化に伴い婦人科疾患も増加傾向です。今後更なる増加が予想されます。当院では幸いにも周辺医療施設とも連携が取れており適切な治療を皆さんに提供できています。婦人科疾患でお困りの方、早期手術をご希望の方、今後出産を考えている方どうぞお気軽にご相談下さい。

食中毒を防ぎましょう

高温多湿の日本の夏は細菌性食中毒（サルモネラ、カンピロバクター、O157など）が多く発生します。

食中毒は飲食店などの外食で発生しているだけでなく、家庭でも発生しています。でも、症状が軽かったりして、食中毒と気づかないケースも少なくありません。食中毒に対する基本的な知識を持って食中毒を防ぎましょう。

食中毒予防の3原則

1 細菌をつけない！

- ・基本は手洗いです。こまめに手を洗いましょう。
- ・まな板、包丁、ふきは衛生的に。
- ・肉、魚の肉汁がほかの食品にかからないように。



2 細菌をふやさない！

- ・食品の保存温度を守り、冷蔵庫や冷凍庫で保存しましょう。
- ・冷凍の食品の解凍は冷蔵庫か電子レンジで行いましょう。
- ・作った料理は早めにたべましょう。



3 細菌をやっつける！

- ・加熱する時は、75℃ 1分以上中心部まで行いましょう。
- ・残った食品を温め直すときも十分加熱しましょう。
- ・調理器具は漂白剤や熱湯などで、こまめに消毒しましょう。



注：一部の食中毒菌（黄色ブドウ球菌など）は熱に強いいため加熱したから大丈夫という過信は禁物です。

栄養科長 松尾 敦子

職場紹介 地域医療連携室

地域医療連携室係長 千葉優喜子

地域医療連携室は病院玄関を入ってすぐ左にあります。「地域医療連携室」という名前だけでは、どのようなことをしている部門なのか分かりにくいと思いますので、その業務内容についてご紹介いたします。

地域医療連携室は医療福祉相談係と連携係の2つにわかれ、医療ソーシャルワーカー4名と事務職員2名が連携室長のもとで働いています。

医療福祉相談係は医療ソーシャルワーカーが患者様やご家族の相談に応じています。経済的なこと、外来受診・入院に関すること、退院に際しての調整、療養上の問題、様々な制度の利用に関することなどについて、専門の相談員である医療ソーシャルワーカーが直接またはお電話にてお話を伺い、悩みや問題を解決できるようにお手伝いしております。ご入院中の場合はベッドサイドに伺うこともあります。介護保険制度についてのご相談やご家族内での介護や療養に関することなどは、相談件数も多く、市役所や支援センター



新入職員を迎えて

看護部長 奥野 喜美子

春の訪れと共に、桜町病院では多くの看護職員をお迎えする事ができました。全国から、新人を含め、経験豊かな看護師・助産師の方々に応募いただきました。フレッシュな息吹が注がれると共に、これまでに培った能力を相互に研鑽しながら、より確実で、質の高い看護実践が展開できるものと、大変期待し楽しみにしております。

新人への研修としては、昨年度、大きな見直しを行い、3ヶ月間を臨床研修制度として位置づけ、一人ひとりが自己のキャリアの記録を1つのファイルに整理し、生涯学習記録として活用できるよう「自分記録（パーソナルファイル）」を使用し始めました。新人のみではなく、継続教育の記録としても活用していきたいと思っております。

一人ひとりの個性を大切に、あせらず、ゆっくり、丁寧に、そして確実に育成するという風土を育てると共に、全職員が、患者さんの置かれた立場や思いを真摯に受け止め、「桜町マインド」を心に留めて、心温まる桜町病院らしいケアの提供ができればと思っております。

など地域の関係機関とも連携をとりながら調整を進めています。相談は無料で行っており、内容については守秘義務を厳守しています。



連携係は当院を受診した患者様がより詳細な検査や専門医の診療を受ける必要が出た際の他院の診療予約、地域の医療機関への広報活動、他の医療機関との連携における統計などを主に行っております。院内においては比較的新しい部門のため、地域との連携を強化していくにはどのようにしたらよいか試行錯誤している部分もあり、まだこれから業務内容については検討していく必要があると思っております。

今後は更に当院における患者様の受入れや今後の療養先がスムーズに見つかるように、また地域の身近な病院として皆様にご利用いただけるように努めていきたいと考えております。

トピックス

死の臨床研究会

第3回 教育研修ワークショップが当院で開催されました。

平成25年3月9日（土）死の臨床研究会主催のワークショップが当院で開催されました。

テーマが「死の臨床におけるコミュニケーション・スピリチュアルケアを目指して」であり、北海道から沖縄まで50名以上の参加がありました。グループ討議・ロールプレイ・ミニレクチャー・演習・交流会などを中心とした参加型学習で、死の臨床における、患者-医療者、家族-医療者、医療者間等のコミュニケーション技法を学びました。各会場共に熱気にあふれ、ロールプレイはそれぞれが役割を熟演し、臨場感あふれる学び多い1日となりました。

聖ヨハネ会本館竣工

3月の末、聖ヨハネ会本館が竣工しました。同館は、2階建てで本部事務機能や会議・研修などに使用する「戸塚ホール」の他、高齢者住宅「シニアハイムさくら」や当院の関係では「さくらまち保育所」が入るものです。

さくらまち保育所は、昨年6月からゲストハウスで仮設オープンしていましたが、3月末に本館への引っ越しを終え、4月1日から本館1階で保育を開始しています。



院内研究発表会

平成25年3月16日（土）、院内研究発表会が開催されました。今年度は小児科外来、リハビリテーション科、医局、療養病棟、薬剤科からの5題の研究発表と施設課から電気使用の推移について報告が行われました。合わせてホスピス病棟から死の臨床研究会で発表した研究報告と医療安全委員会からの医療安全報告が行われました。審査の結果、院内研究発表会の最優秀賞には療養病棟の「療養病棟における美肌水を用いた皮膚保湿ケア」（写真）が、優秀賞には小児科外来の「1か月健診における育児のしおりの有用性について考える」が選ばれました。また、施設課の報告に対し特別賞が授与されました。



平成24年度患者満足度調査結果（総合評価）

昨年度、入院・外来患者さんのご協力をいただき満足度調査を行いました。

当院の施設・設備、待ち時間、職員の言葉使いや態度、診療技術などについて質問ご回答いただきました。

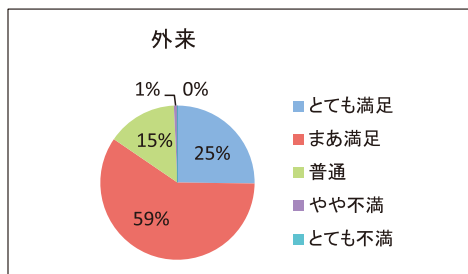
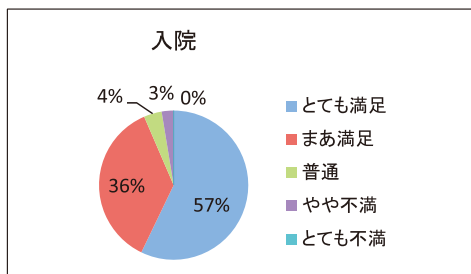
その結果は、別グラフのとおりです。入院・外来ともに総じて高い評価をいただきましたが、中に大変厳しいご意見もいただいております。

外来における「とても満足」の割合が全体の4分の1程度であることをしっかりと受け止めなければならないと考えています。

今後とも、患者さんに安全で安心な医療を提供していただけるよう、職員一同研鑽を積むとともに、サービスの向上に心がけていきたいと考えています。

事務部長 富田 周次

(人)



	入院	外来
とても満足	44	101
まあ満足	28	238
普通	3	59
やや不満	2	3
とても不満	0	0
合計	77	401

外来診療担当表

平成25年4月1日現在

診療科名		月	火	水	木	金	土	
内科	新患	楠本	高原	林(志)	瀬口	平嶺	(交代制)	
		平嶺	坂田	瀬口	高倉	林(志)	(交代制)	
		林(志)	佐藤	竹内	竹内	楠本(10:00~)	後藤	
		岡本	土持	楠本	古川	土持	柏本(第2・5)	
		糸井(月1回)	平嶺	河野	高原	柏本		
	内視鏡					佐藤		
		石井						
	午後	新患	高原	林(志)	林(志)	平嶺	高倉	
		林(正)		瀬口	瀬口	井上	佐藤	
				井上	大井(裕)(第2)		柏本	
			佐藤					
内視鏡				福神	高倉	栗原		
精神神経科	午前	寺田(新患は予約制)	寺田	寺田	寺田	仁王(新患は予約制)	寺田	
				森本(新患は予約制)	宮島(新患は予約制)		黄野(再診のみ)	
小児科	午前	杉立	小林	杉立	杉立	小林	小林	
		山田	山田	山田	山田	杉立	杉立	
					羽田(アレルギー第3)	羽田(アレルギー第3)	山田	
	午後	杉立	山田	杉立(一般・神経)	杉立	小林(心臓)		
					羽田			
予防接種	山田	小林	山田	山田				
外科	午前	植木	池野	堀合	植木	池野	池野(第2・第4)	
							植木(第1・第3)	
							(交代制)(第5)	
内視鏡			植木	池野				
乳腺外科	午後				伊東	井本(偶数週)		
脳神経外科	午後			石島(紹介患者のみ)				
整形外科	午前	増岡(新患)	柴崎	増岡	増岡	山口(美)	(交代制)	
		柴崎(予約制)	山口(玲)	山口(美)	大堀	大堀		
		山口(美)	佐藤	小泉(新患)	佐藤	佐藤		
リハ	午前				補永			
	午後					和田(第4)		
産婦人科	午前	向田(利)	高江洲	向田(利)	井坂(予約制)	伊東	高江洲	
		高江洲	向田(一)	引場	小島	蘭田	吉田	
	午後			吉田			(交代制)	
眼科	午前	大井(禎)	大井(禎)	大井(禎)(第2・4)	大井(禎)	大井(禎)	平岡	
				宮本(第1・3・5)				
	午後			吉野(第1・3・5)				
ホスピス科	午後	林(裕)		林(裕)		林(裕)		
		大井(裕)		大井(裕)		大井(裕)		

休診日 日曜・祝日・年末年始(12/30~1/3)

受付時間 8:30~11:30

午後診のある診療科の受付時間は各科により異なりますので、各科にてご確認ください。

診療時間 9:00~

13:30~

・月曜日~金曜日の14:00~15:30の間、電話による予約受付を行っております。

電話 042-383-4111(代表)

ただし、一部の科では電話予約は行っておりません。

・精神神経科・ホスピス科は初診・再診とも全て予約制となっております。

・内科の午後診療は新患以外は予約制となっております。



患者さんの権利と責務

患者さんの権利

1. 人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利があります。
2. どなたでも、どのような病気でも平等かつ公平な医療を受ける権利があります。
3. 病状と経過、検査や治療の内容について、分かりやすい言葉で説明を受ける権利があります。
4. 十分な説明と情報に基づき、自らの意思で医療内容を選ぶ権利があります。
5. セカンド・オピニオンを希望される場合は、当院は快く診療情報を提供します。

患者さんの責務

1. 病状などに関する情報提供に努める責務
ご自分の症状や健康に関する詳細で正確な情報を医師や看護師等へ提供することにご協力ください。
2. 適切な医療行為が提供できるように努める責務
病院内では、他の患者様等に迷惑にならないように静粛を保つとともに、当院職員が適切な医療を行えるようにご協力ください。
3. 病院秩序を守る責務
病院内の秩序を守るために、当院の諸規則に従ってください。
4. 診療費支払いの責務
病院は診療報酬によって運営されています。医療費の支払い請求を受けた時は速やかなお支払いにご協力ください。

編集後記

イレギュラーな発刊となりましたが、さくら第9号をお届けします。

「3.11」から2年が経ちました。一向に進まない復興。現場では「復興」ではなくまだ震災直ったただ中の状態と聞きます。忘れることなく、一人ひとりが出来る範囲内で支援活動を続けていかなければならないと思います。

この4月も新しい職員の皆さんをお迎えし新年度がスタートしました。

新入職員の皆さんと共に、職員一同「桜町マイルド」を胸に、従来にも増して安全で優しい医療の提供に努めて参る所存です。

(周)